

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員全員が理解しやすい理念を独自に掲げ、ホームの入り口やユニット内に掲示している。		会議等を通じ理念の再確認を行うよう努める。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常生活の中で、常に目配り・気配りが必要であり、入居されている方の生活の支援においては、自然と理念に基づき実践している。		今後も、理念の共有を図るため会議等で、職員全体で確認を行うよう努める。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	こもれびの広報誌や毎月のお便り、地域の行事や運営推進会議を通じご家族や地域の方々にホームの日々の生活の様子などを理解して頂けるよう取り組んでいる。		ご家族や、地域の方に理念の浸透は今後も活発に取り組み、今は広報誌等に限るが、ホームページなどを検討しており、更に日々の生活や理念の理解に努める。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や町内合同の清掃や町内の行事などを積極的に参加をする事により、なじみの関係が出来ている。また、隣近所からは収穫した野菜などを頂いたり、清掃や除雪等も協力し合える環境が出来ている。活動を通じお話しする機会が増えている。		町内活動は今後も積極的に参加をし、互いに災害時など助け合える環境を作る為にも、ホーム主催の避難訓練など計画をし、地域の方や近隣に呼びかけ活動を通じて関係を更に深めるよう努める。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームの各ユニットごとが町内会に加入をし、町内で行なわれる行事や学校で行なわれる行事なども案内がホームに届き、入居者や職員も積極的に参加をしている。又ホームで行なう夏のお祭りは、地域の活動の一つとして浸透しつつあり、多数のお手伝いや参加をしていただき交流が深まっている。		町内の行事以外にも、自治会や老人会と連携できる環境を作れるよう努めていく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内福祉部の会で、認知症やグループホームの説明を行う機会や町内主催のお祭りにてグループホームを知って頂く為、お話する機会を作ったり、町内便りにグループホームや認知症の説明などを載せ、町内の方々に認知症への理解を深めて頂く取り組みなどを行なっている。		今後は、ホームの職員がキャラバンメイトの研修に行き、回覧板や活動を通じ認知症サポーター講座などを通じ地域に貢献するよう検討中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ホームの全体会議や申し送り等を利用して外部評価の説明を行い、日々取り組んでいるサービスの質の向上を職員全員で再認識、再確認を図る機会となっている。		評価に対し、自分たちが気づかない点は、職員と話し合い改善など行なう。又良い点に関しては、これからも継続できるよう職員全体で意思の統一を図るよう努める。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの取り組みの書類等作成し報告をしている。又、ホームでの行事へのお手伝いを呼びかけ、参加して頂き実際にホームの取り組みなどを生で見て、意見要望などを伺う事を行なっている。避難訓練時には、地域の他運営推進会議のメンバーにも参加を呼びかけ有事の際の避難の困難さを理解して頂き、より多くの支援の必要性など認識を互いにする機会になっている。		会議では、書類を見ての話し合いになるとホームが一方向的に話すこともあり活動を通じもっと運営推進委員の方々にホームの取り組みなどを見ていただき、貴重な意見を聞けるよう、会議については動きのある会議にしていこう努める。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員とは、日常的に意見交換や相談等を行なっている。又恵庭市全グループホームで構成されているネットワークを通じ、市や包括などと連携を取りサービスの向上を図る為話し合いの場を設けたり、市とグループホームと合同で研修会、他事業者との横のつながりも出来ている。市職員の方も、ホームの行事などに積極的にボランティアとして支援を頂いたりしている。		今後も、市担当職員と情報交換をまめに行い連携強化に努める。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	市主催の研修会や市担当者に相談等を行い情報を学び、利用者の状況やご家族と話し合い、必要であると確認された方には担当者を紹介し、より詳しく説明を受け制度の活用を利用できる調整等を行なっている。		一部の職員を除いては、職員自体権利擁護を理解していない状況であり、職員にも権利擁護における研修の場を設け必要性の理解を深めるよう努める。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	市主催の研修に参加し、会議等で報告をしている。関連法について詳細を職員全体が学ぶ機会は設けていないが、日常生活で機会がある度にどのような事が虐待と言うかなど話題にしている。		職員に虐待についての理解する為、研修・勉強会の場を設けるよう努めると共に、職員のストレスを溜めないよう配慮にも努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際、解約時は契約書・重要事項説明書に基づき、ご家族の納得がいくまで十分話し合い、理解、納得を得ている。又、今後のことも交え話し合いを行なっている。		今後ともご家族や入居者と十分に話し合いを行い、不安や疑問等があれば迅速に解決できるよう十分に説明を行い、理解を得られるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常会話の中でホーム長、管理者や職員へ意見・不満を言える環境作りに努めている。又、自分から積極的に発言できない方に関しては、表情・動作から感じ取り、個人的に話せる時間を作り、職員に周知、ユニット会議などで話し合いを行なっている。		今後も継続して行なっていく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度は必ず入居担当者から生活状況の報告を行なっている。金銭の出納に関するもつぎに一度領収書、出納帳簿を確認頂いてご家族から捺印を頂いている。又、健康状態に異変があった時や、通院時、医師より説明があった際は、速やかにご家族へ報告をしている。		今後も継続して行なっていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情・相談窓口名前を明記しており、ホームの窓口以外にも国保連合会、恵庭市役所、社会福祉協議会の苦情窓口も合わせて明記している。入居時にも説明をしている。又玄関に意見箱を設置をして、迅速に対応できるよう心掛けています。		ご家族からの意見・不満・苦情があったときは、早急に対応し運営に反映するよう努めていく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議やホームの全体会議を開き、意見を出し合っている。又管理者は日頃から職員の意見などを話せる環境にあり、管理者で判断が難しいときなどホーム長と協議をし反映させている。		今後も継続的に行なっていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	あらかじめ決まっている受診や行事に関しては、それに対応した人員の配置を行なっている。また、病欠などで人員が不足になる際には、勤務調整を行い人員を補うよう心掛けている。職員一人ひとりが状況を理解し柔軟に対応している。		今後も、勤務調整する際には、管理者は職員に十分な説明をし職員に無理のない勤務調整に努める。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が代わる場合には、その影響について十分に検討を行い利用者へのダメージを必要最小限にし、なじみの関係を大切に努めている。		今後も継続して行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に研修を受講するよう努めている。研修の希望があれば受講しやすいよう勤務表を配慮し、受講後は報告書をにまとめている。経験に応じた研修を市内のグループホームと連携を行い開催している。又、介護福祉士、介護支援専門員その他資格試験も積極的に促している。		職員が専門性を高める為に必要な研修・資格受験は、今後も継続して行なっていく。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	恵庭市グループネットワークの会で必ず月一回開いており、そこで職員が必要としていることを協議をし、研修を行ったりホームに相互に訪問をし取り組みの情報交換等を行なう等同業者とも関係を密にしている。		同業者の相互の訪問は、ホーム長、管理者の機会は多かったが、今後は職員にも、訪問する機会を作り積極的に取り組んで行くよう努める。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務表の作成にも職員の意向等を十分に配慮している。又定期的に親睦会が持たれ、食事会を開き、気分転換を図ると共に、職員の会議では聞けない意見や思いなど話せる場を作りストレス軽減できるよう取り組んでいる。又、他グループホームの職員とも交流を持ち互いの立場で悩みや思いを話している。		定期的を開催することで、互いの悩みや思いを共有できるようにし、より良いチームワークの築くよう取り組み、互いに刺激をし合えるよう取り組んでいきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の努力や実績などを把握し、各自にあった研修・講習などを促し向上してもらおう機会を設けている。管理者は今後の取り組みを職員各自に考えるように指導しており自分たち自らが、色々考えそれを活かし、又反省しと向上心を持って働いてもらえるよう努めている。		今後も積極的に取り組んでいく。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談があった場合は、速やかに日時の調整をさせていただいたうえで、十分に相談事を聞きいられる機会の確保に努めている。必要であれば相談者宅に訪問して、相談に応じるよう努めている。		相談者の状況により、自宅訪問したりと、柔軟な対応は心掛けていく。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者の訴えに対して、画一的に捉えることなく、十分にお話を聞き入れ、少しでも困っていることや、不安が軽減されるよう努力している。家族独自の不安や求めていることを相談しやすいような環境づくりを実践している。		今後も家族の不安が少しでも軽減できる環境を提供する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	十分なお話を聞き入れたうえで、必要なサービスを見極めるよう努めている。サービスを受けられる方や家族にサービスの内容の理解を得ていただき、利用される方や家族の意向、継続してサービスを利用できる状況であるか等をホーム内で検討し、他のサービスの利用が適していると思われた場合は、地域包括センターや居宅介護支援事業所との連携した対応を実践している。		市役所や居宅介護支援事業所との連携は継続して行っていく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの利用にあたり、利用をされる方、家族等に十分なサービス概要の説明により、理解を得ていただくように努めている。できる限りホームの見学をしていただくことによって、場の雰囲気を直接見て感じていただくようにしたり、利用者宅に何度か訪問して、馴染みの関係の構築に努めたりと、環境が変わっても安心して生活ができるように対応している。		本人が納得してサービスを利用していただくために、十分にお話を聞き入れる機会の確保に努め、本人、家族が納得できる最善の形でサービスを利用できるよう努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活し支え合う関係の構築のため、できるだけ自立できるような環境整備に努め、日常生活の些細なことでも、職員と一緒に取り組むように心掛け実践している。又、クリスマスのケーキ作り等、年間行事の中でも、準備段階から利用者と一緒にこなすことによって、達成の喜びを分かち合うことが出来ている。		利用者本位の考えを優先すると共に、何かに取り組んだことに対して、結果も大事であるが、その過程の中でのなるべく一緒に行うようにしていくことを優先したケアに取り組んでいく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時間を設けず、いつでも出入りできるような開放感ある環境づくりに努めている。家族には、面会時や毎月の手紙により近況報告をさせていただき、その中で利用者の生活の質の向上のために家族などからアドバイスをいただき実践している。利用者の意向があれば、家族との話し合いのうえで、外出・外泊の機会を多くもっていただいたり、通院が必要な状況があった場合、家族に協力を仰いでいただいている。		本人と家族とが関われる機会を作れるよう努める。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居時に本人と家族との関係について十分理解するよう努め、それぞれが望む関係が構築できるよう支援している。		家族、本人の交流の機会を積極的に作るよう努める。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	サービスを利用される以前は、どのようなライフスタイルであったかを、本人、家族等からアセスメントをしたうえで、ケアプランに反映し、馴染みの関係が途切れないように努めている。地域にあるスーパーへの買い物に出かけたり、銭湯に出かける等、可能な限り実践を試みている。		入居後も、新しいなじみの場所が築けるよう支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれの利用者の性格や相性を把握し、食事の準備や後片付けを利用者同士で行ったり、レクリエーションを通じて利用者同士関わり合う機会を作ったりしている。		レクリエーションを積極的に取り入れて、利用者同士の交流の場をつくり、関わり合う機会の確保に努める。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後もご家族や利用者との連絡は取り合っている。継続的な医療行為が必要で退所された利用者のところへ、職員が自発的にお見舞い行く等、退所後のお付き合いを大切にしている。		今後も継続的に行なっていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に食事や入浴、就寝時間などは決められておらず、一人ひとりの生活に対する意向を尊重した暮らしが出来ている。本人の表情や言動の中で意向を把握し、実現できることは可能な限り実践できるよう努めている。		今後も継続して行っていくよう努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に利用される方、家族、関係者からの情報収集により、その人の生活歴等の把握に努めている。利用に至るまでに関わったサービス担当者や担当ケアマネジャーからも情報提供していただき、これまでの経過の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1人ひとりの生活のリズムやADL状態を、日々の記録により職員全員が閲覧でき、その中で自分で出来ること、出来ないことを把握している。日々の生活の中に取り入れることが出来る可能性があることは、カンファレンスで検討し、暮らしの中に取り入れている。心身状態に関しても、日々の記録や申し送りにより、何か変化があれば、訪問看護師や主治医との連携による対応をし、心身状態の現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者から暮らしに対する意向を聞き入れたり、日々の生活の記録の中からや、カンファレンス等で職員からの情報提供からアセスメントを行い、各利用者の担当職員と計画作成担当者のもと、本人らしい生活が継続できるような介護計画を作成できるよう努めている。		センター方式の活用がまだ不十分なところがあるので、上手に活用し、利用者のケアに反映できるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に沿って支援が実行できているか、成果はでているかカンファレンス時にモニタリングを行い、援助内容の検討を行なっている。一人ひとりの介護計画の実施期間に応じて、本人、家族、関係者との話し合い、カンファレンスにて検討された内容を考慮して、担当職員、計画作成担当で現状に即した介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個々の介護記録を用意し、ケアプランの目標に対して、実践した結果・反応・出た言葉等を記録できるようにしている。その他、特記事項として日々の生活の中で変化があれば、詳細に記録するように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	毎日の食事の献立が決まっていないため、その都度、利用者が食べたいものを取り入れた献立作りを心掛けており、毎日買い物に出かける機会を確保している。利用者と食材の買い物に出かけたり、その他に外出したいと要望があれば出かける体制づくりができています。家族による、外泊、外出に対しては、気兼ねなく、いつでも行なえるよう柔軟な対応をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防機関とは、避難訓練を通して連携を図っている。又、消防訓練の際に町内の方や民生委員に案内を出し参加して下さっている。中学校から文化祭のお誘いがあり参加をしたり、地域全体作のお祭りの提燈を入居者と職員が協力し作成をし、地域ボランティアを協力しながら提燈を飾らせて頂いたり取り組んでいる。		今後も継続して行なっていく。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、地域の他のケアマネジャーとの話し合いはないが、今後必要に応じサービスの利用の検討を行なっていく		必要に応じサービスの検討を行なうよう取り組んでいく。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主に運営推進会議において地域包括支援センターの方々とホームの入居者の事など、話し合いをしている。		今後も継続して行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制により、24時間、何かあれば看護師に相談できる体制は確保しており、また、主治医による訪問診療により、日常の健康管理ができています。その他、歯科医による定期健診や、皮膚科医の往診体制も確保している。		今後も継続して支援できる体制の確保に努める。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問看護や主治医との情報交換によって、認知症に関する診断が必要であると判断された場合は、訪問看護、主治医との協力により、専門医との連絡・調整がスムーズに行うことができ、治療が必要がある方に関しては、早期に治療できるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間の医療連携体制により、週一回の看護師の訪問時に利用者の近況報告をし、利用者の健康管理に努めている。		今後も訪問看護との連携により健康管理に努めていく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご家族の意向をよく聞き、医療機関と情報交換を行ない、利用者の状況把握に努め、早期退院が出来るよう入院中は、こまめに面会に行き病棟担当者や情報交換を行ない、ご家族に報告をしている。		今後も継続的に行なっていく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化になりそうな段階から、ご家族には機会を設けてお話ししている。主治医や医療連携機関と密に連絡を取り合い、ご家族も交え話し合いを行なって方向性などを決め職員等に周知している。		重度化、終末期の話し合いを今後も積極的に設けていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族には、ホームのできることを、出来ないことを説明を行い、主治医や医療機関とホームとご家族とで話し合いを行っている。今現在、ホームに看護師が勤務していないのと、24時間往診医の協力体制も整っている状況ではなく、ホームとして医療機関と連携を密に行い出来る限りの支援を行ない、ご家族にはその都度連絡を行なっている。ホームでの支援が難しくなってきた場合にも、ご家族、医療機関等と話し合いを行い受け入れ先が決まるまで支援を行なっている。		終末期向けの医療との連携体制の確立の他、全職員で終末ケアの勉強会及び研修など積極的に行いスキルアップを行なうよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化によるダメージを最小限にするため、本人、家族に、入居の際は、事前に見学していただいたり、顔見知りの関係を築くために、自宅訪問をしている。居室に置かれる家具や身近なものに関しては、今まで使用していた使い慣れたものを持ち込まれるようにして、環境の変化を極力少なくするよう努めている。必要に応じては、慣れるまで家族と協力して自宅などの外出・外泊時間を確保したり、面会の頻度を多くしたり対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	自尊心を傷つけないよう、気をつけた言葉かけを行っている。記録に関しては、個別にファイルし、プライバシーを守っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自立支援に向けて、自己決定ができるよう、一つひとつの状況に対して選択性を持たせた接し方を心がけている。本人の希望があったり、意思表示があった場合は極力、受容し応えて行く事により、自分の意思を表に出しやすい環境づくりに努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の日課は必要以上のことは決めないで、利用者と日常生活を共にしていく中で、構築していくよう努めている。一人ひとり生活習慣が異なるので、その人に合わせたペースを尊重した支援を実践している。特に食事、入浴、就寝時間等は、本人の意思を尊重した生活ができている。		利用者のペースを尊重したケアを、今後も継続していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎月一回、訪問理・美容師に来ていただき身だしなみを整えている。また、近所にある理・美容に通いたいと希望がある方に対しては、望む店を利用していただいている。		一人ひとりの要望に応えた対応を実践していく。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	食事を楽しんでいただきたいので、一切献立は決まっておらず、毎食の献立作りから利用者に関わり、その時に食べたいものを取り入れた献立作りを実践している。食材を切ったり、味付けや味見等の準備段階には、なるべく利用者と一緒にいるようにしている。後片付けに関しても、利用者が自発的に行うような環境づくりを行い、その人のできる範囲の事をなるべく行っていただくよう支援している。		食事を楽しんでいただくことを優先した中、栄養面にも配慮した食事提供ができるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食べることに関しては、好きなものを食べたい時に食べて、楽しむことは生きて行く上で大切なことだと考えている。嗜好品に対しては、医師や看護師に相談し、一人ひとりの状態を考慮した中で、可能な限り嗜好品を楽しんでいただくよう努めている。		本人の嗜好品に対しては、極力、医療機関に相談しながら応えていくよう努める。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の身体状況等を検討して、本人が一番気持ちよく排泄できる環境を提供できるよう実践している。排泄を記録することで、排泄パターン、習慣の把握に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の日は決まらず、利用者から入浴の希望があれば、可能な限りその時に入浴できるよう支援している。		今後も日時を決めることなく、利用者の希望に沿えるよう支援して行く。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日常生活の中で休息したり、寝ることに関しては、基本的に自己判断によるものを尊重している。自分で行動に移すことが困難な方は、本人の思いや、状態、生活スタイルの理解に努め、休息や寝るよう支援している。寄り添って安心して、休める方に関しては、本人の望むような対応を心掛けている。		今後も利用者の生活スタイルを尊重した対応を継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりどのような性格で、どんな生活を望んでいるのか、何を楽しみごととして、日々の生活を送りたいか本人、家族から話を聞くことによって理解に努めている。また暮らしの中で、楽しみを見出していくことにより継続した実践をしている。決して強制して役割をもたせようとするとはせず、あくまでも自然の関わりの中で役割的なものを本人なりに自覚できるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族や、本人からお金の所持の希望があれば、金銭管理能力がある方に関しては、小額であれば所持していただいている。基本的には、預かり金という形で、事業所で金銭管理をしている。		お金の所持を希望される方に関しては、紛失のリスクがあることを、本人、家族に説明し了解を得た中で行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物に出かける機会は、毎日設けており、買い物に出かける時は、利用者を誘って外出をするよう心掛けている。本人が外に出たい様子が伺えたら、いつでも職員同行のもと外出機会を確保しており散歩したり、近くのお店に歩いて買い物に出掛けている。日向ぼっこや外で食事をしたりと外気に触れ、季節感を感じていただき、年間行事の中にも、地域や町内の行事に参加するため出掛けたり、季節ごとに外出行事を企画し実践している。		年間行事の中でも、利用者が行きたい希望のある場所を取り入れて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別に何処か行きたいと希望があった場合は、できる限り対応するよう努めている。お盆に、お墓参りにいきたいという希望や、何処どこのアイスクリームが食べたいなど突発的な希望に対しても柔軟な対応を実践している。年間行事の中にも、皆様が楽しめる外出行事を企画したり、家族の協力のもとで、なじみの場所に出掛けられている。		今後も利用者の要望に応えていけるよう継続して支援を行う。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人から電話を掛けたいと要望がある時は、スタッフに伝えることでいつでも電話ができる体制は確保している。利用者に毎年、年賀状を作成していただき、家族以外とのつながりが持てるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は決めておらず、日中は玄関の施錠は行っていないので、関係者であれば、どなたでも気軽に出入りできる環境を提供している。家族、友人等もリラックスして過ごせるよう、家庭的な環境を提供できるよう努めている。		訪問者の意見、感想を積極的に聞き入れ、より訪問し易い環境づくりに努めていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の虐待や身体拘束に関しての研修の参加により理解に努め、身体拘束のないケアを実践している。カンファレンス等で、これから実践してみようと考えているケアに対して、身体拘束になっていないか確認・検討しながらケアに取り組んでいる。		身体拘束に関する知識を深めるために、多くの研修に参加できる体制を確保する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠により、利用者が不穏になったり、何か弊害が生まれる可能性が考えられる方は、現在のところ居ないが、一人でいつでも気軽に外に出掛けられるよう、日中の施錠は行っていない。		安全面を十分に考慮しながら、施錠を行わないケアに取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の所在を把握するよう目配りを行い、日常のケアに取り組んでいる。		安全面にを重視しつつも、プライバシーの配慮を継続して行っていく。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の利用者の状態によってだが、危険だと考えられる物に関しては、カンファレンス等で検討し、極力本人の同意の中で、注意の必要な物を預からせていただいている。		できるだけ本人の意向を尊重しながら、事故には注意していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止の為の見守り、職員間での連携を取っている。手引き歩行、誤嚥防止にも目配り、気配りを実施している。ユニット会議でもヒヤリハットについても検証を行い事故防止に努めている。又、誤薬防止の為に服薬の氏名の確認、他の職員にも声を掛け合い誤薬防止に努めている。又火災訓練は年に2回行っている。		今後も、事故防止の研修など積極的に参加するよう努める。
70	急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ホームに急変時の対応を掲示すると共に、普通救命講習を受講をしている。急変時は訪問看護との連携をに対応する。		救急、事故のマニュアルを検討しなおし、再度研修や話し合いを設け行なっていくよう努める。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回は必ず避難訓練を行なっている。又、近隣・町内にもお声がけを行い、一緒に避難訓練に参加していただいている。ホーム内に緊急時の対応を掲示している。		今後も継続して行なっていく、又近隣町内の方により多くの協力が得られるよう併せて継続して行うよう努める。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の意向や生活の質の向上を考えると、リスクが考えられる状況が生まれてくることがあるが、その都度、家族との話し合いにより、理解を得ていただくよう努めている。		本人、家族と十分に話し合い、お互いが納得できる環境が作れるよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定の記録をし、日々の状態の変化に気をつけている。訪問看護ステーションとは、24時間連絡体制を整えており、変化や異常があった場合は、速やかに連絡をしている。医師の訪問診療により近況報告し、体調の変化があれば速やかに対応できる体制づくりができています。新たに指示が出た場合は、職員間で情報の共有のために、申し送りノートに詳細を記載している。</p>	<p>今後とも、医療機関等の連絡は密に行うよう努める。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>どんな薬を服用されているか、すぐに確認できるよう、個々のファイルに綴っており、いつでも確認できるようにしている。薬による副作用、用法、用量については、訪問看護や薬剤師に薬のことについての相談により理解するよう努めている。</p>	<p>今後も薬について分からないことがあった場合は、その都度、医療機関に確認を行い理解に努めていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便の記録をすることにより、便秘が悪化する前に気づくよう努めている。訪問看護に個々の排便に関して報告し、必要な食事療法や運動等のアドバイスをいただき実践している。下剤にて排便のコントロールが必要な方に対しても、医師や看護師の指示のもと、便秘予防に努めている。</p>	<p>今後とも、日々の観察を怠ることなく、医療機関との連携に努め、便秘の予防に努めていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>口腔内を清潔に保っていただけるように、毎食後に口腔ケアを促し行っている。歯科医の訪問診療による定期健診により、口腔の状態の確認をしていただいている。歯科医の指示により、口腔状態の維持・改善による指導を受け、実践している。</p>	<p>歯科医との連携を、今後とも継続して行うよう努める。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の経過記録に、食事量、水分量の記載を行い、一人ひとりの状態の変化に気づくよう努めている。又、週一回の訪問看護を通じ、栄養士にも相談にのっていただいている。</p>	<p>食事が思うように摂れない方には、看護師や栄養士に相談して、最善を尽くすよう努める。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>保健所で行なわれている感染予防の研修会に参加をし、ホームの会議や日々の申し送り等で職員に周知徹底を行なっている。又、外出後のうがい・手洗いの徹底やインフルエンザの予防ワクチンをホーム全体で接種をしている。ホーム内の換気、日々の消毒等にも努めている。</p>	<p>今後も継続的にを行い、徹底するよう努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>保健所による感染予防の研修会に参加し、職員に周知していただくために、感染予防のための衛生管理について、会議等を通じて指導している。食材に関しては、毎回買い物に出か掛ける前に、冷蔵庫の残りの食材を確認してから、食材を購入するよう努めている。食材は、なるべく国産のものを使用するように心掛けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には、プランターに花を植えて、親しみ易く、明るい雰囲気を作るよう心掛けている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用スペースには花を飾ったり、風鈴をつけたりと季節感を取り入れるよう心掛けている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>基本的には職員が居場所を作ることはなく、利用者同士が居場所を見つけ、自然とそれぞれ思い思いに過ごされている。</p>		<p>職員が居場所を作ることなく、利用者本位で生活していただき、弊害が生じることがあれば対応を試みるよう努める。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人にとって、一番落ち着く環境で生活をしていただきたいので、それが使い慣れたものが良いのであれば、家具や布団等持ち込まれて、本人なりの心地よい環境づくりを実践している。</p>		<p>その人が望む環境づくりに配慮する。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>感染予防ためや空気のおよみがないよう、換気を行うことはできている。湿度や温度を意識し管理に努めてる。</p>		<p>今後も継続して行うよう努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの機能に対応した建物になってはいないが、使い勝手が悪い中でも、職員の見守りの中であたり、利用者が自分で使いやすいよう考えながら、安全な日常生活を送られている。自立して行っている中で、危険が予測できることに関しては、事前に環境整備を行っている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自立してできることは、なるべく行なっていただくために、カンファレンス等で出来ること出来ないことを、話し合いの中で検討し、統一したケアの中で実践できるように努めている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季は、玄関前のスペースを利用して食事したり、日光浴を楽しまれている。建物の裏のスペースに畑を耕し、利用者と一緒に作業を実践している。駐車場スペースを利用して夏祭りを実施し、利用者はもちろんの事、家族、地域住民、他の事業所の利用者等に参加していただき、交流の場として活用している。</p>	<p>畑の作物が、より充実したものになるよう努める。</p>

.サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> 大いに増えている  <input type="radio"/> 少しずつ増えている  <input type="radio"/> あまり増えていない  <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 運営推進会議を通じて、地域の方々にグループホームという所を理解していただくことに努めた結果、地域住民の方々より密着した関係を築くことができ、協力的な支援をいただいている。近所からお漬物をいただいたり、タオルをいただいたりと交流の機会が増え、特に夏祭りの行事に関しては、こちらの協力の依頼に快く引き受けてくださることで、盛大なお祭り行事を開催することが出来ている。